

「花一会」と「あそぶつく」



私が、ニセコに住むようになって、もう10年が過ぎました。

当初、ニセコ町には、まだ“あそぶっく”はありませんでしたから、町民センターの2階にある図書室で本を借りていました。

そこで、新しく図書館が出来ると聞いて、とても楽しみにしていました。

“あそぶっく”設立からボランティアとして関わり、今は職員として働いています。

ボランティアをしていたころ、子供達に向け、読み聞かせの他に、パネルシアターや大型絵本の作成なども同時に行っ

ていました。

作る楽しさ、喜んでもらえる嬉しさと、両方を味わうことが出来ました。

そんな日々を送っている中で、近隣町村からも依頼を受けて、手作り人形劇やパネルシアターなどを、披露する場を設けていただきました。

それもまた、私にとって、とてもいい経験になりました。

蘭越の小学校へも伺わせていただいたこともあり、“花一会”の方達と顔見知りになり、その後も情報交換をするようになりました。

私達の作った作品をお貸しすることも増えてきました。

数ヶ月の間、楽しみながらも一生懸命作り上げた作品を、
いろいろな場、いろいろな人達の手で、披露する機会を増や
していくことは、大変嬉しいことです。

我が子が巣立つ感覚でしょうか。

もちろん、私達も他の町の作品をお借りしたこともありま
す。

ボランティア活動をされる方達は、皆さん、それぞれに手
作りの大型絵本やパネルシアター、人形劇などお持ちです。

その後、縁あって“あそぶっく”の職員になり、それまで

やっていたボランティア活動とは違う、仕事として関わるようになり、目線が変わりました。

特に印象的だったのは、“花一会” 職員のブックトークです。

私もブックトークを何度か行ったことはあったのですが、テーマを決めて、関連ある作品を興味深くトークする。

それは、練習に練習を重ねての発表だと思いました。

大変参考になりました。

実際、その後、一度ブックトークをする機会があり、なんとか思うようなブックトークが出来たかなと思っています。

本当にお陰様で、なのです。

今では、“ビブリオバトル”という、5分ほどで自分の好きな本を紹介し、数人で誰が紹介した本が一番読みたいと思うか、挙手や拍手などで1位(それがチャンプ本となります)を決めるというものが、評判になってきているようです。

原稿なしで、如何に短い時間に、良かった本を薦めることが出来るのか…。

本のジャンルは問わず、好きなように与えられた5分を使う。

これはきっと「この本、すごく面白かったんだよ～」という友達との会話と同じと考えれば、誰でも気軽に出来るもの

なのでしょう。

今後に期待大な“ビブリオバトル”です。

さて、ちょっと話が逸れたかもしれませんが、“花一会”
と言えば、研修に行かせて頂いたこともあるのです。

“ブックスタート”について、“あそぶっく”がやってき
ていること、“花一会”がやってきていることの情報交換で
す。

お互いによい情報交換が出来ました。

やり方の違いも、こういう情報交換を行ってこそ、わかる
もの。

今後の”ブックスタート”で参考にしたい事柄を得ることが出来ました。

逆に、お得な情報なども伝えることも出来ました。

館内を出て、その日は食事会を設けました。

これはとても楽しい場となりました。

レストランももちろんお勧めの場所でした。

今度はニセコに来てもらいたいですね。

美味しいレストランを紹介します。

このような機会をもっと設けてゆきたいですね。

近隣町村との情報交換により、お互いの町村がもっと近く
感じ、きっと気が付かない、いろいろなこと、見えてくるの
ではないかと思うのです。

*ブックトークとは、一定のテーマを立てて一定の時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介すること。

*ブックスタートとは、赤ちゃんとその保護者に絵本や子育てに関する情報などが入ったブックスタート・パックを手渡し、絵本を介して心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動のこと。



蘭越町コミュニティプラザ 花一会



ニセコ町学習交流センター あそぶっく

「花一会」と「あそぶっく」

～北海道にある蘭越町とニセコ町の図書館～

2014年3月1日初版発行

出版：らんこし作家デビュー・プロジェクト

発行：越湖 明美